

女子のリナ いつ
の間にかハマる泥
沼とラブホテル
一步だけ前へと歩
を踏み出す・・・

現在、列車に乗っても駅の構内街の歩道の上でも皆、端末を手に取り・・・ディスプレイを見たり音楽を聴いたりしている。

ポケットWi-Fiの時代・・・人々はいつの間にか気付かぬうちにそのまま泥沼に入り込んでしまったようだ。

しかしそれとは全く異なる真っ白下着の世界がある。

だからこそ、黒いカーテンの向こうは異世界の妄想とパラダイスなのである。

女子たちは皆、真っ白下着に穿きかえる・・・・・・・・。

そしてカオスの中、恐怖のような話ではあるが、平穏な街並は泥沼の中にあつという間に変貌。

皆、不安・・・・・・・・・・。時代は淫靡の時代・・・・・・・・。

本気なのか冗談なのか・・・はたまた真
実なのか・・・曖昧でよく分からない。

つまり、誰も相手に興味がない.....。

すぐに入る泥沼の扉の向こうは暗闇である。しかし一つでも踏み越えようとして工夫してみたり・・・・・・・・それはシャワールームの淫靡である。

頬を赤らめて買い物に出かけたり…………。

そのすぐに入ってしまうその泥沼と・・・・とあるラブホテルの三階はすぐ近くにあるかのように繋がっているのである。

ポケットにあるディスプレイとWi-Fiはそれを使って出会い・・・・カラダを合体し合うための道具の一つである。

もはやどうあがいても逃れられない闇。

だからこそ・・・・少しでも女子たちは
カラダをジムで鍛えて動く・・・・。

リナという女子がいた。彼女はとあるホ
テルを知っていた。

ラブホテルの三階にはぬいぐるみの置物や毛布などが置いてあるが、すぐに行けるため少し物足りない。

しかしもう一步だけ踏み込めば、その先には割れた壺のようなものがあり、そこには温泉女子たちの油絵の絵画が壁に飾ってある。

その泥沼にハマっても行き来できる楽しさは・・・別の側面で現実の女子たちの健康的ランニングで繋がっている。

草木のある外へ出て風や雨を感じれば、すぐにでも誰もいない夜の川辺で女子たちはすぐにでも真っ白下着を下ろして・・・。

だから少し間を置いて泥沼の一步だけ
先でシャワーを浴びたりもする。

狭い浴室内はシャンプーの香り。

ハダカの温度が立ち込め・・・・弱めの
換気扇が回っている。

女子たちは毎晩そこで一糸まとわぬ姿
になる・・・・。全て別の物語のこと。

日中はスポーツ・・・・テニスやバドミントンなどで体を健康的にして、流した汗は女子たちの太ももをパイパンにする・・・・そしてお尻。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)